

「八日市飛行場」について調べるには

八日市飛行場は、1914年9月に滋賀県愛知郡八木荘村（現・愛知郡愛荘町）出身の荻田常三郎が、故郷の沖野ヶ原で飛行機の短距離飛行を行うために使用した臨時飛行場が始まりでした。翌年6月に日本初の民間飛行場として完成しました。1922年1月に軍隊の「航空第三大隊」が置かれ、名称も「八日市飛行場」になりました。1941年12月8日に太平洋戦争が勃発し、実践部隊に変わって教育隊などが配備されました。（『八日市地区の遺跡探検』より）



図書館の資料で調べる

◆『蒲生野 13号～32号』

八日市郷土文化研究会／編、1976年～2000年

郷土史家・福原進氏による「八日市飛行場沿革史①～⑱」を所収しています。八日市飛行場が幻の飛行場となってしまう前に記録に残したいという思いから執筆されましたが、著者逝去のため未完となっています。

八日市郷土文化研究会の機関誌である『蒲生野』には他にも同研究会会員による八日市飛行場に関する文章が多数所収されています。

◆『八日市飛行場物語』『八日市飛行場物語 続』

萩須 憲一／著、1995年

湖南鉄道飛行部隊の工事に従事し、八日市飛行場についてよく知る著者が記憶をたどって書いた資料です。

◆『八日市と飛行場』

奥井 清弘／著、1995年

1922年八日市飛行通信社の奥井清弘氏による八日市飛行場と付近の名所古刹を紹介する資料の複製物です。

◆『軍都の轍より―八日市私史近現代抄―』

中島 隆／著、1993年

八日市市史編纂に携わった著者による、大正から昭和の戦前・戦中にかけて軍都として歩んだ八日市の足取りとその帰結を記した資料です。

◆『翦風号が空を飛んだ日』

中島 伸男／著、1992年

飛行家・荻田常三郎を支え、彼の墜死後、自らの資産を投げ出してその遺志を継ごうとした熊木九兵衛。その足跡を軸に、広漠たる沖野ヶ原次代から陸軍航空第三大隊八日市飛行場が誕生するまでの、八日市と飛行場をめぐる物語を追う資料です。

◆『翦風号ものがたり』

翦風号を甦らせる会／編、2004年

八日市飛行場の始まりから翦風号・第二翦風号について写真を多く用いて説明した全10ページのパンフレット資料です。翦風号を甦らせる会の会員による翦風号復元作業の写真もあります。

◆『今、語らなければ―八日市市平和記念展の記録』

八日市市平和記念展等開催実行委員会／著、2005年

陸軍八日市飛行場に関係の深かった四人のインタビューや八日市飛行場と当時の戦況の様子がわかる年表が掲載されています。

◆『八日市・布引山の戦争遺跡群（旧陸軍八日市飛行場関連遺跡）に関する調査報告書』

皇子山を守る会陸軍八日市／編、2001年

旧陸軍八日市飛行場の分布・測量調査の報告書。写真や図を用いて詳しく説明されています。

◆『陸軍飛行第244戦隊史』

櫻井 隆／著、そうぶん社／刊、1995年

陸軍飛行第244戦隊は太平洋戦争中、陸軍航空部隊随一とも言われるほど数多くの敵機を追撃した部隊でした。沖縄戦終結後、八日市飛行場で解散を迎えました。本書は当時のことを知る貴重な記録です。